人の営みとともに

当事務所が管理する大分川・大野川の二つの一級河川は、大分の発展の礎となってきました。憩いや交流の場でもある河川をより生活しやすく、より安全に利用できるよう、整備を進めています。

河川

大分川水系関連事業

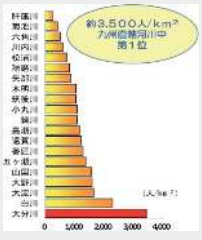
大分川の概要

大分川は、その源を由布市湯布院町の由布岳に発し、賀来川、七瀬川と合流し、大分市において別府湾に注ぐ幹川流路延長55km、流域面積650㎢の一級河川です。

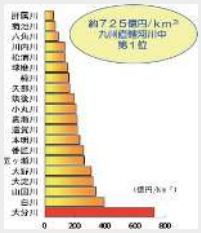
流域内の人口は約26万人で、大分県の社会、経済、文化の基盤をなしています。

【大分川流域図】

【想定氾濫区域内人口密度】



【想定氾濫区域内資産密度】



出典：国土交通省・水管理・国土保全ホームページ
「一級水系における流域等の面積、総人口、一般資産額等について(想 定氾濫区域)」(調査基準年：平成22年)

水源地及標高	大分県由布市湯布院町　由布岳　標高１,５８３m
氾濫防御区間	４５㎞（大臣管理区間３８㎞）
事務所管理区間	本川１７.０km　支川七瀬川７.８km　支川賀来川２.０km　総延長２６.８km
計画高水流量	（基準地点）府内大橋　基本高水流量５,７００㎥/ｓ　計画高水流量５,０００㎥/ｓ

大分川流域の過去の水害

水害の多くは台風や梅雨前線に起因する大雨によって発生しています。
令和2年7月豪雨では、堤防越水による氾濫が発生しました。

昭和２８年６月洪水（梅雨前線）

大分市の明磧橋の水位は、26日14時に計画高水位を突破し、16時に最高水位に達しました。舞鶴橋が流出しました。

大分川舞鶴橋

大分市下郡地区（外水）

平成５年９月洪水（台風第１３号）

台風第13号による大雨で、大分では観測史上第1位の最大1時間降水量81.5㎜、観測史上第2位の日降水量 414㎜を記録しました。

賀来川小畑橋

七瀬川露橋

令和２年７月豪雨（梅雨前線）

梅雨前線による大雨で、小野屋で観測史上第1位の最大1時間降水量88.0mm、5日から8日までの総雨量は448mm、同尻橋では観測史上最大水位を記録しました。

由布市下市地区（外水）

大分市脇地区（内水）

令和６年８月洪水（台風１０号）

台風10号に伴う強い雨域が大分川および大野川流域にかかり、大分川流域では合棚雨量観測所（大分県別府市）において、24時間降水量が632mmを記録しました。

賀来川左岸 0k600

宮苑地点

大分川の整備計画・整備事業

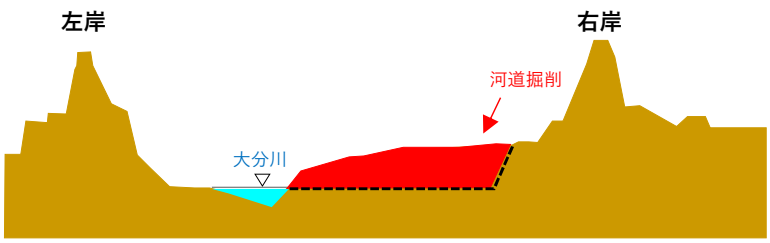
大分川中流部河川改修事業（令和3年度～）

大分川中流部（小野鶴地区）において、多様な水辺環境に配慮しながら、洪水を安全に流すための能力が不足している区間の樹木伐採・河道掘削を実施し、早期に地域の安全性の向上を図ります。

令和７年度は、引き続き河道掘削等を実施します。

工事状況 R7.3

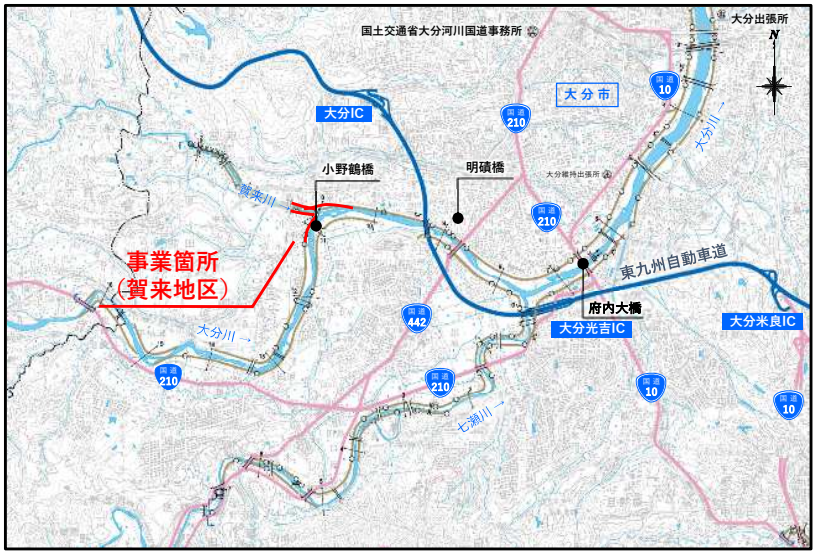
河道掘削のイメージ



賀来地区堤防強化事業（令和2年度～）

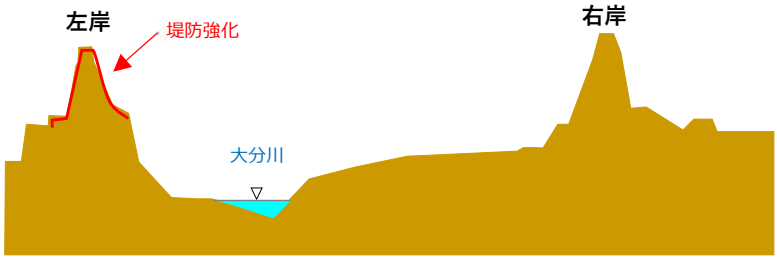
賀来地区（大分川・賀来川合流付近）においては、特定区間の危険箇所であることや昭和２８年の堤防決壊の実績を踏まえ、粘り強い河川堤防のために堤防の強化を実施します。

令和７年度は、引き続き堤防強化等を実施します。



工事状況 R7.3

堤防強化のイメージ



大分川の整備計画、整備事業

大分川総合水系環境整備事業(大分川下流域かわまちづくり 令和5年度～)

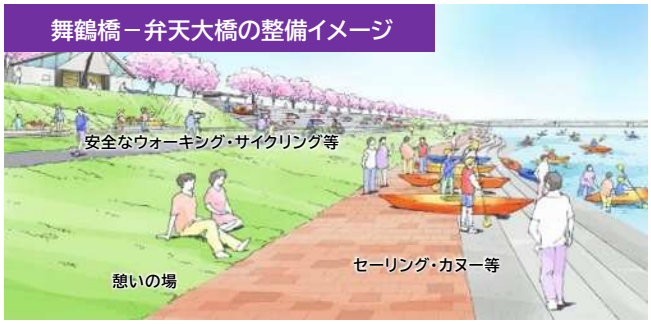
大分市の推進するスポーツによるまちづくりと一体となり、河川とまちが融合したスポーツ拠点および多様な利用が可能な魅力ある水辺空間を創出することにより、地域活性化を図ります。

事業期間：令和５年度～令和１４年度

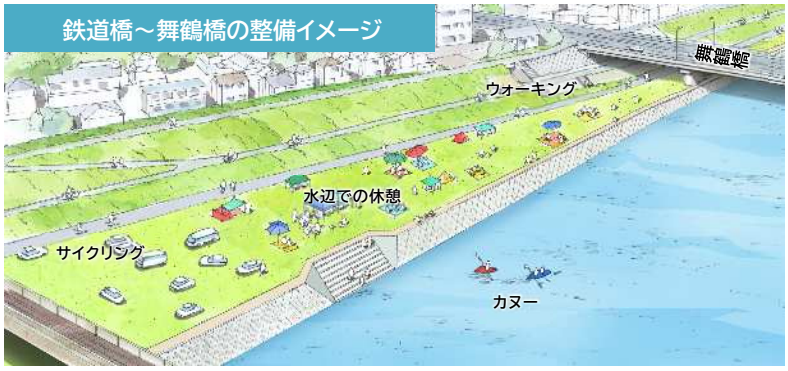
【整備予定箇所】

※府内大橋～宗麟大橋上流(左岸4k200～6k600)は管理用通路のみ整備予定。
宗麟大橋上流～弁天大橋(左岸1k200～4k200)は主要な整備範囲として各種施設の整備を予定

【整備内容】



▲かわまち事業で整備された親水護岸



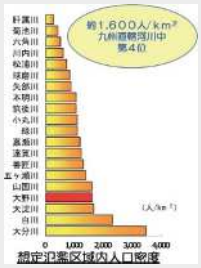
※今後、工事実施のための詳細な設計等を実施することにより、実施内容を変更する場合があります。

大野川水系関連事業

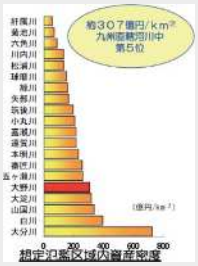
大野川の概要

大野川は、その源を宮崎県西臼杵郡高千穂町祖母山に発し、大分市大津留において乙津川を分派し、別府湾に注ぐ幹川流路延長107㎞、流域面積1,465㎢の一級河川です。流域内の人口は約21万人で、流域の産業活動は三次産業の比率が高く、河口部付近一帯は工業地帯として発展しています。

【想定氾濫区域内人口密度】

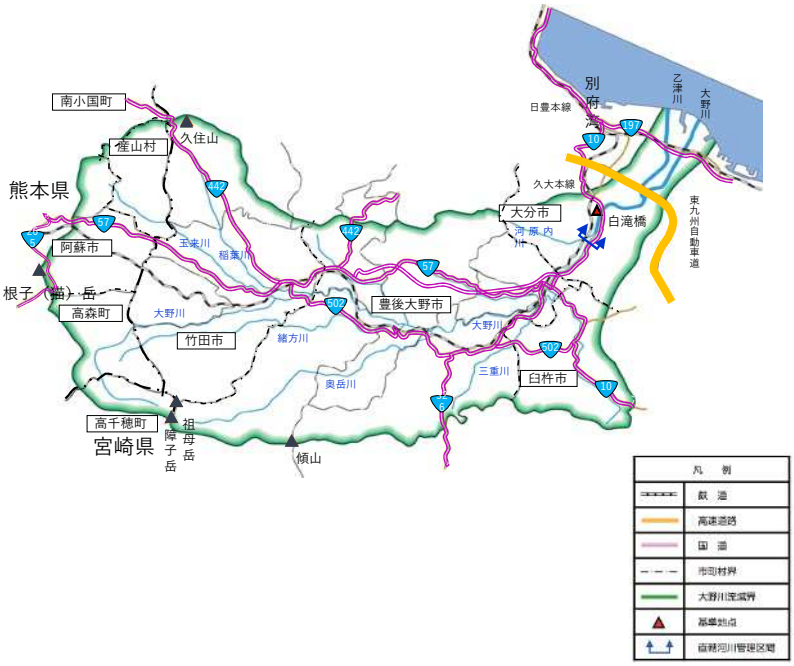


【想定氾濫区域内資産密度】



出典：国土交通省・水管理・国土保全ホームページ
「一級水系における流域等の面積、総人口、一般資産額等について(想 定氾濫区域)」(調査基準年：平成22年)

【大野川流域図】



水源地及標高	宮崎県西臼杵郡高千穂町　祖母山　標高１，７５６m
氾濫防御区間	５０㎞（大臣管理区間４５㎞）
事務所管理区間	本川１９.８km　派川乙津川１０.９km　支川判田川１.３km　支川立小野川０.３km 総延長３２.３km
計画高水流量	（基準地点）白滝橋　基本高水流量１３,５００㎥/ｓ　計画高水流量１１,１００㎥/ｓ

大野川流域の過去の水害

水害の多くは台風や梅雨前線に起因する大雨によって発生しています。
平成29年9月洪水は、観測史上最大規模の洪水となりました。

昭和１８年９月洪水（台風第２６号）

台風第26号による大雨は下流平地部及び中流部に集中し、急激な大野川の水位上昇で、下流部の堤防は至るところで越流により決壊し、鶴崎町を中心とした平地部は浸水し大被害が生じました。

大分市大津留地区
（大野川8k400付近）

平成５年９月洪水（台風第１３号）

台風第13号による大雨で、大分は日雨量414mm、最大1時間降水量は観測史上第1位の81.5mmを記録し、犬飼・大津留・高田橋の観測所では観測史上最高水位を記録しました。

大分市毛井地区

大分市竹中地区

平成１７年９月洪水（台風第１４号）

台風第14号は長時間激しい雨が降り続き、4日から6日までの総雨量は、竹田で418mm、大分で375mmを記録しました。

大分市岩舟地区

大分市利光地区

平成２９年９月洪水（台風第１８号）

台風第18号による大雨で、大野川流域では17日の早朝より夕方にかけて猛烈な雨となり、長谷川で日雨量571mmを記録し、白滝橋で観測史上最大流量の洪水となりました。

大分市毛井地区（内水）

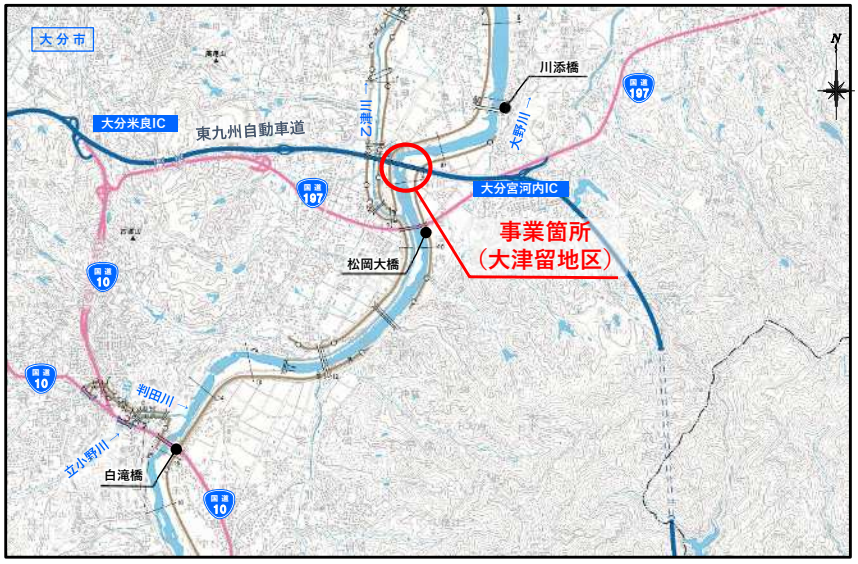
大分市利光地区（外水）

大野川の整備計画・整備事業

大津留地区河川改修事業（令和２年度～）

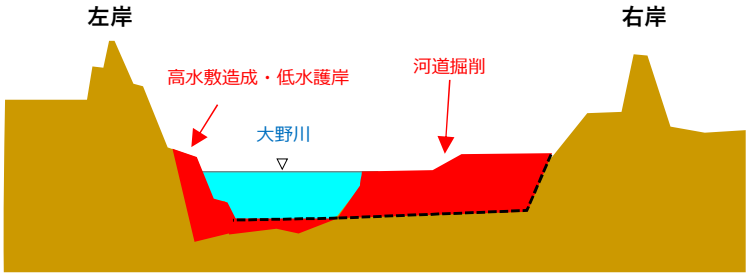
大津留地区においては、気候変動に伴い激甚化・頻発化する自然災害を踏まえ、流域治水対策を推進するため、重点的・集中的に河床低下対策を実施し、早期に地域の安全性の向上を図ります。

令和７年度は、河道掘削・高水敷造成・護岸整備等を実施します。



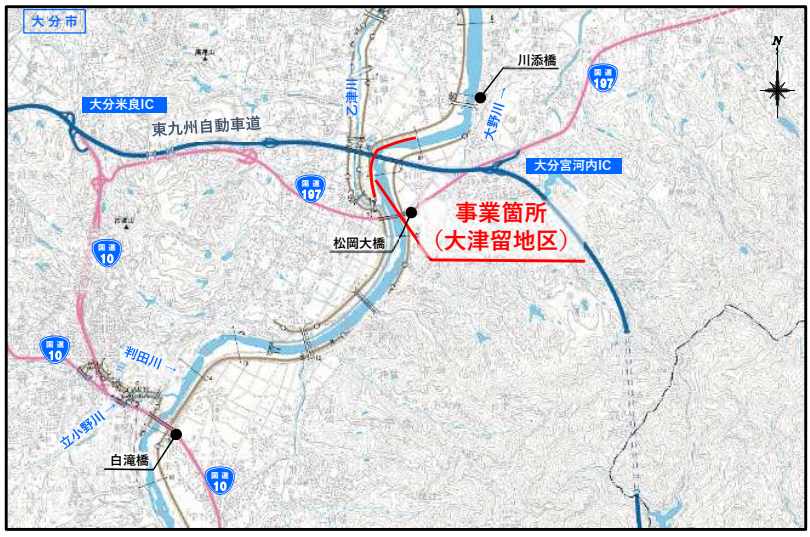
工事状況 R7.3

河床低下対策のイメージ



大津留地区においては、平成２９年９月の台風第１８号洪水等による河岸侵食の状況や昭和１８年の堤防決壊の実績を踏まえ、粘り強い河川堤防として堤防強化を実施します。

令和７年度は、引き続き堤防強化等を実施します。



工事状況 R7.3

堤防強化のイメージ

河川の維持管理事業

大分川・大野川の維持管理

河川堤防や樋門・樋管、排水ポンプ場などの河川管理施設が通常時や災害時に的確に機能するよう、定期的又は必要に応じて維持・補修・更新を行うとともに、老朽化した樋管等の省人化のためのフラップゲート改良を実施しています。

河川堤防では、法面補修や河川巡視、堤防除草などの日常的な管理のほか、洪水時に支障となる河川内の樹木の管理を実施します。また、水門等の河川管理施設の操作に支障となる堆積した土砂や塵芥を撤去します。

ゲートの無動力化

老朽化した小規模な樋門等の改良を行い、構造物の長寿命化及び省人化を図っています。

更新前

更新後（人による操作不要）

河川における施設点検

防災面や安全面、環境面などの観点から、総合的かつ適正に河川を管理するため、多様な関係者との合同点検を実施しています。

水門等の現地一斉点検

出水期前に大分川・大野川の水門等の施設及びその周辺の状況について消防団と合同で点検を実施しています。

大分川・大野川安全利用点検

河川利用者が増える夏休みの前に、河川利用空間の安全点検を実施しています。

許可工作物等の出水期前点検

地域の安全性確保に努めるため、大分川・大野川水系の許可工作物を対象に出水期前に点検を実施しています。

許認可関係

川はみんなの財産であり、釣り、散策など、他の利用者や近隣住民の迷惑・河川管理上支障にならない範囲で自由に使用できますが、乗り入れ口の設置や集会等、土地の形状を変更したり他の河川利用者を排除したりする場合は使用目的によっては許認可の手続きが必要です。

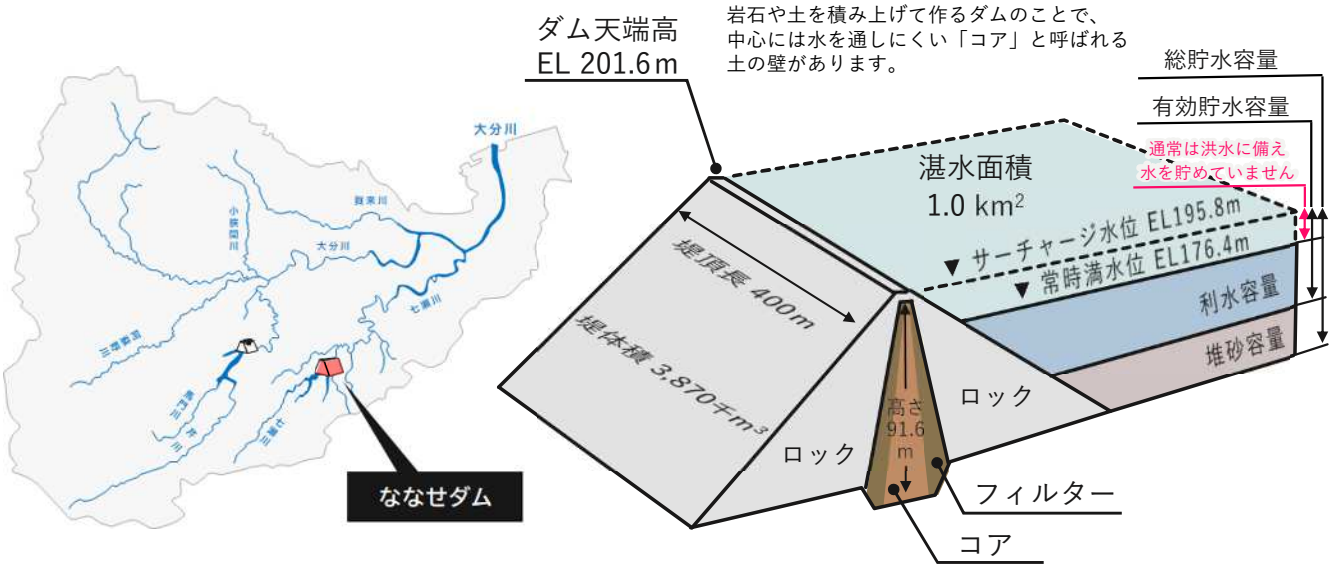
ななせダムの維持管理事業

ななせダムの概要

位置	左岸：大分市大字下原地先　／　右岸：大分市大字下原地先				
河川名	大分川水系七瀬川	堤頂長	400m※	利水容量	8,100千㎥
ダムの形式	ロックフィルダム	堤体積	3,870千㎥	堆砂容量	1,600千㎥
集水面積	38.0㎢	総貯水容量	24,000千㎥	ダム天端高	EL　201.6m
湛水面積	1.0㎢	有効貯水容量	22,400千㎥	サーチャージ水位	EL　195.8m
堤高	91.6m	洪水調節容量	14,300千㎥	常時満水位	EL　176.4m

※ダム幅（洪水吐を含む）：約500m

ダムの形式：
ロックフィルダム
岩石や土を積み上げて作るダムのことで、中心には水を通しにくい「コア」と呼ばれる土の壁があります。



ななせダムの目的

洪水調節

◆　流域内の洪水調節施設と合わせて、大分川沿川の地域を洪水による被害から守ります。

ダムがないと・・・

大雨による川の増水時、水がそのまま下流域へと流れてしまうと、洪水による被害が発生する場合があります。

ダムがあると・・・

上流に降った大雨をダムでいったんため込んで、洪水調節を行うことで、洪水による被害を防ぎます。

河川環境用水

◆　雨が降らない日が続いても、ダムに貯めた水を補給することで、川の水量を保ちます。

ダムがないと・・・

日照りが続いて川の水の量が少なくなると、水辺の生き物が生息しにくくなります。

ダムがあると・・・

必要な時にダムから水を補給することで、水辺の生き物が安心して生息できます。

水道用水

◆　川への流量が豊かな時にダムへ水を貯め、
必要な時に供給することで、新たな水資源を確保します。

ダムがないと・・・

渇水の時に、減水や断水になることがあります。

ダムがあると・・・

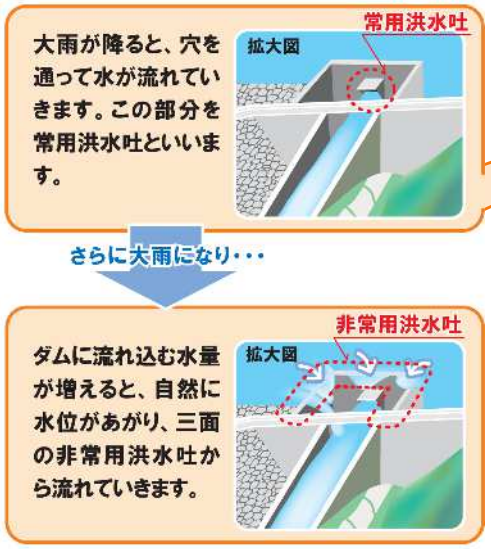
ダムに貯めた水を利用して、水道の水を安定的に利用できます。

●ただし、ダムも万能ではありません。
目標とする規模を上回る洪水の流入や渇水に対しては、対応できない場合もあります。

洪水調節の仕組み

通常時は、下流へ水を流すため、取水施設よりトンネル内の管を通って川へと放流されます。
大雨が降ってダムに流れ込む水量が増えた場合には、ダム湖内に水を貯めながら洪水吐より下流へ放流を行います。

※自然調節方式
ダム貯水池の水位が洪水吐まで上昇したとき洪水吐から自然に水が流れ出す方式



ダムの維持管理

ダムが安全に機能するように、ダムの堤体や設備の点検・修繕を実施しています。
また、ダム湖に流れ込む流木を貯水池内で回収することで、大雨時に下流へ流出しないよう未然に防止します。

大雨によってダムの貯水位が高くなり放流量が増える際は、事前に地域の方々への放流量増加のお知らせや関係機関との情報共有を行っております。

◆操作室

◆流木回収作業

【船による流木回収】

【回収された流木】